

馬の文

s道

馬の会話（田舎者の会話）

与平 さあどうしたな、田吾作のやつが見えねえがな、さっき足いしきずってやがったがだ
いぶ遅れたようだ

ちよいと呼んでみるか、おーい！田吾作ー！

田吾作 なんだよおー

与平 おう、声は聞こえんな、どこにいんだよー！

田吾作 ここだよー

与平 なんだいあの野郎畑の真ん中でしゃがんでやがるぜ、おーいそんなとこいしゃがん出
るとなあ！さくあらしと間違いられて棒縛りにあうぞー！

なにやってんだー

田吾作 紙いもってきてくれえー

与平 何をやってんだよ汚ねえなあまったく、早く済ましちまいな、紙はお前も持ってたろ
ーよ、、、おいおい大丈夫か？おめえびっこ引いてんじゃねえか、

田吾作 そーなんだよ、あしくじいちまってな。

与平 そらいけねえやな、なんでくじいちまったんだい？

田吾作 気が付いたら挫いてた

与平 呑気なやつだねまったく、いいかい？これは急ぎの使いなんだからのんびりしてる暇
はねえんだ！もう一踏ん張りだ！急ぐぞ！

田吾作 わかったからちょっと待ってくれよ、、、

s屋敷（侍＝次部衛門）

殿 これ！次部衛門！次部衛門はおらぬか！

侍 は！次部衛門、只今参上つかまつりました。

殿 おお、次部衛門よくぞ参った！火球の用事である！出羽の国に嫁いだ世の妹が男子出産である、急ぎこの祝をどどけよ。

侍 ハッ

殿 急ぎであるぞ

侍 かしこまっております。おい！みの吉！馬をひけ！

部下（みの吉） はは！治部右衛門様。火急の用事でございましょうか？

侍 左様である！世が男子出産である。

部下 次部衛門殿にですか？

侍 拙者ではない。世である。

部下 世と言うことは次部衛門どどのの…

侍 世と言うのはつまり拙者の世であって、、、つまりはなんだ、そのお、、、——
そう！殿じゃ！殿のことである！よいか！以後気をつけよ！

部下（みのきち） ははあー！では、次部衛門さま、こちらの馬に！

侍 左様か、この馬は小さいな

部下 次部衛門さま、それは犬にございます。

侍 なんと、、、犬では乗れんな！

部下 仰る通りで、、、

侍 以後気をつけよ！

部下 申し訳ございません！次部衛門さま、こちらの馬でございます！

侍 左様か！この馬には首がないな

部下 次部衛門さま、前後真逆にございます。

侍 なるほど。間抜けな馬であるなあ！以後気をつけよ！

s道

馬の会話

田 それにしてもよお、お前が乗ってる侍、随分と粗忽だな

与 なにをいってやんで、お前なんか荷物しか載せてないだろ。

田 与平、随分と遅れてるじゃねえか。早くしねえと荷物が先についちまう。

与 いくら歩いても進まねえんだ。

田 足元みてみろ。お前沼にハマってるじゃねえか

侍 これ、与平すすめ、なぜすすまん。いかん。沼である。話にいた事があるぞ。この当たりにある底なし沼かもしれん。んん。致し方ない。与平はここに捨て置く。

s沼

田 豪快にハマったな。

与 笑ってないで助けるよ

田 そりゃ無理だ。にんげみたくに手があれば引っ張ることも出来るが、ヒヅメではどうにもならない

与 このまま沈むと息ができなくなる

田 大丈夫だ。鼻だけ出して息すれば

与 なんだそらや

田 カバと間違われる。丁度いい。逆さまにすれば馬鹿だ。そこで馬だと気づかれて誰かに助けて貰えるだらう。

侍 荷馬を連れてきて良かった。よし、田吾作に乗り換えだ。

田吾作 おいおい！冗談じゃねえぜ荷物と殿様いっぺんに載せるなんておい！ちょっと待ってくれ！おいおい！！、、、お、重い。重いなんてもんじゃねえぞ。荷物の上から侍が乗っかってきた、

与 人のこと笑うからそうなるんだ。ザマアねえな。

田吾作 重い。手伝え

与 手伝いたいけど、おれは沼に落ちちまった。手も足も出ねえ。あ、手は無かったか。

田吾作 冗談言っただけで。

侍 田吾作、急げ！ハイヤ！

s道

田吾作 いててて。もうダメだ。こっちははなからあしくじいてんだ。そこへ荷物も殿様も載せたら進めるわけがねえ、、、

侍 田吾作、走れ、どうした？（降りる）ん、なんだ！ 足を怪我しているではないか。むむむ。これでは先に進めん。殿の妹君への祝を届けられん。困った。実に困った。

田吾作 困った困ったじゃねえやな、まったく馬は足が命なんだよ。こっちの方が困ってんだからよ、、、あれ？あの遠くの方に見えんのはあれは与平じゃねえか？

与平 パカパカカヒン

侍 おお！あれは与平ではないか！

与平 冗談じゃないよまったく、泥だらけになっちまった

侍 与平、よく間に合った。貴様自分であそこから抜け出したのか。見殺しにしようとした拙者を許せ。これで役目を果たせる！

与平 田吾作どうした？さっきの威勢はどこへ行った？

田吾作 お前こそよく底なし沼から出てこれたな。

与平 なあに、簡単さ。底あり沼だったからな

田吾作 え？

与平 底があって、こんなもんだ。

田吾作 お前、肩まで浸かってたじゃないか

与平 お前が鼻だけ出してろって言うから

田吾作 計略（的なセリフ）はかったな。戻って来てお前は馬鹿だな。荷物と侍一緒に運ばなくちゃいけないんだぞ。

侍 そうか。荷物と拙者を載せたから怪我をしたのだな。よし、荷物はここに捨てて、拙者だけ乗ろう

与平 侍と何を乗せるんだっけ？

田吾作 お前ばかりズルいじゃねえか、まさかあのバカの殿様が学習するとは、、、

与平 向こうついたら、飼い葉の柔らかい所もらって、しっかり休んでから助けに来てやるよ。

田吾作 すぐ助けにこい

侍 与平、はいや！ 日暮れまでに出羽国に到着するのだ！

田吾作 いっちまいやがった。白状な野郎だ。俺はけがしてんだ。もう少し優しくしてくれたっていいじゃねえか。

与平 ハカラハカラヒーソ

田吾作 与平じゃねえか。そうか、俺が心配だから戻って来てくれたのか（目線で通り過ぎる）おい、おい、どこ行くんだ？ 俺を助けに来たんじゃねえのか？ そっちはさっきハマった沼があるぞ。

与平 いや、いいんだ。湯冷めしたから、ひとつ風呂浴びてくるきたんだ！ おーい！ こっちだよー！ お前俺が心配で戻ってきてくれたんだな！

与平 そうじゃねえやな、祝いの品は諦めたがお祝いの手紙がねえとどうも具合が悪いよな、それえ取りに来たんだよ

田吾作 なんだい、喜んで損したぜ

与平 お前を喜ばしてる暇なんざねえんだよ、早く手紙を出さない

田吾作 それはちよいと出来ねえな、、、

与平 どうしてだい？

田吾作 はなの道すがらでおらぁクソを放ったろ？

与平 そんなこたどーでもいいんだよ！早く手紙だしねえ

田吾作 だからよ、そんな時に手紙使っちゃったんだい。

end